

令和3年度県立日立工業高等学校自己評価表

全日制

No.1

目指す学校像	・工業技術の基礎・基本を重視するとともに、ものづくり等の体験的な学習や資格取得等を推進して、技術者としての感性と確かな力を育む学校。 ・教職員が一致協力して、心身両面調和のとれた教育に努め、社会人としてのマナーや態度を身につけた健康的で人間性豊かな人材を育む学校。 ・保護者や地域との連携・協力を努め信頼と期待に応える開かれた学校。				
昨年度の成果と課題	番号	本年度の重点目標	具体的目標	達成状況	
学力の向上に関しては、長期休業前に課題を配布し、その内容による基礎力テストを全学年で実施している。また、学習の遅れがある生徒に対して補講等で対応したが、原級留置となる生徒も出てしまった。また、資格取得に関しては、様々な資格に取り組み、合格率は約50%である。技能士では2級合格者がでるなど、意欲のある生徒はより高い目標を達成しているが、資格取得に対する生徒の意識が両極化の傾向にある。 進路に関しては、就職希望者内定率が100%と高水準となった。これはデュアルシステム・インターンシップといったキャリア教育や、様々な進路ガイダンスを計画的に行った成果と考えられる。 生徒指導では、立哨指導や集会等を行い学校生活等への注意喚起を行ったが、人間関係などのトラブルが増加傾向にある。 特別活動では部活動等の加入率が72%とここ数年上昇している。多くの生徒が積極的に参加し、全国大会出場など多くの成績を残している。	1	学力の向上	①授業研究等を通して、分かる授業の実践に取り組む。 ②基礎学力定着のための指導に取り組む。 ③自宅学習の必要性を意識させる指導に取り組む。	B	
	2	豊かな人間性・社会性の育成	④1学年・2学年の道徳教育に計画的に取り組む。 ⑤3S(整理・整頓・清掃)運動を展開し、生活・学習環境の改善に努める。 ⑥基本的生活習慣の定着と規範意識の高揚、公共マナーの向上を図り、責任ある社会の一員としての自覚を促す指導に努める。	B	
	3	進路指導の充実	⑦生徒に夢や希望を抱かせる指導を工夫する。 ⑧キャリア教育に努め、勤労観・職業観を育成し、進路未定で卒業する生徒をなくす。 ⑨進学希望者の希望実現及び国公立大学等への進学実現に向けて取り組む。	A	
	4	本校教育の特色化	⑩インターンシップ・デュアルシステムの一層の充実を図る。 ⑪各部間の連携を取り合い、部活動の活性化と強化を図る。 ⑫ジュニアマイスター顕彰制度を活用するなど資格取得の推進を図る。	A	
	5	積極的な情報の発信	⑬ホームページの適時・適切な更新に努め、最新情報を提供する。 ⑭生徒の顕著な活動については、新聞や広報誌等での広報に努める。 ⑮授業公開・中学生体験学習・中学校への説明会等での広報活動に努める。	B	
	6	働き方改革の推進	⑯仕事内容の見直しを行い、仕事の効率化に取り組む。	B	
三つの方針		具体的目標	評価	次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」(スクールポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)	・工業技術の基礎・基本を重視するとともに、ものづくり等の体験的な学習や資格取得等を推進して、技術者としての感性と確かな力を育む人材。 ・心身両面調和のとれた教育に努め、社会人としてのマナーや態度を身につけた健康的で人間性豊かな人材。 ・保護者や地域との連携・協力を努め信頼と期待に応えられる人材。	A	・工業科の特色を生かした資格指導や地域への更なるPR活動。 ・生徒が「自ら考え、自ら学ぶ」意識の涵養。 ・生徒が主体となった学校行事の推進。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)	・生徒一人一人の個性を生かし伸ばす学習指導を工夫し、学力の向上の実現。 ・生活指導や特別活動を充実させ、社会人として必要なマナーや態度を身につけさせるとともに、豊かな人間性・社会性を育む指導の実現。 ・生徒に将来の夢や希望を抱かせるとともに、生徒の多様なニーズに対応した進路指導の実現。	B		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	・主体的に学び、技術・技能の基礎となる知識を身につけようとする意欲のある生徒。 ・目的達成のために、他者を尊重しつつ対話による深い学びと協働する姿勢のある生徒。 ・社会生活を営む上で必要不可欠な健康の増進および体力の向上を目指し日々努力する生徒。	B		
評価項目	具体的目標	番号	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎学力の定着を図る	1	生徒の個性や能力に応じた適切な学習指導を工夫する。	① B	生徒の自主的学習習慣の定着及びICT授業方法の深化。
	総合評価	2	基礎的・基本的な内容を明確にし、教科・科目の特性を考慮した授業展開を工夫する。	② B	
教科	国語	基礎学力の確実な定着を図る		② A	・ICT機器を活用した授業の工夫、情報共有。 ・新教育課程への対応。 ・漢字検定取得への取り組みを強化。
		1	副教材を有効に活用し、語彙を増やす。	② A	
		2	適切な補助教材となるプリントを作成して教科内で共有し、授業に生かす。	① A	
		進路実現に向けて学力の向上に努める		⑧ A	
		3	テキストを使用して就職試験の問題を解かせる。	⑧ A	
	4	小論文、作文の具体的な指導をする。	⑧⑨ A		
	5	漢字検定3級の取得を奨励する。	⑫ B		
	総合評価		A		
	地歴公民	基礎学力の向上を図る		①② A	・新教育課程へ対応した教材の研究。 ・ICT機器を取り入れた授業展開の研究。
		1	プリント教材を利用して学習の理解度を把握し、次の授業改善に生かす。	①② A	
2		課題のノートを定期的に点検し、次の授業改善に生かす。	③ A		
授業改善の推進を図る		⑥ B			
3		授業に対する生徒アンケートを実施し、理解度に応じた授業内容など授業改善に努める。	⑥ B		
4		各種研修会に参加し自己研鑽に努める。	⑦ B		
5	指導形態や教材の工夫改善を図る。	① B			
6	生徒の実態に応じた指導内容に基づく基準を設定し、適切に評価するよう努める。	⑦ B			
適切な学習評価		B			
総合評価		B			
数学	学習意欲の向上と基礎学力の定着を図る		①② B	・新教育課程へ対応した教材の研究。 ・ICT機器を活用した授業計画。 ・進学者向けの課外授業の充実。	
	1	わかる授業を展開し、学習意欲の向上を図る。	①② B		
	2	発展的な内容を取り扱ったり、授業ノートを点検するなど、個に応じた指導を行う。	②③ B		
	授業力向上に取り組む		① A		
	3	教科指導研修(ICT活用など)を定期的に行い、指導力向上に努める。	① A		
	4	新教育課程導入に向けた指導法や教材教具の開発を行う。	① C		
進路実現の支援を行う		⑧⑨ B			
5	進路に応じた課外指導を行う。	⑧⑨ B			
6	数学検定3級以上の取得を奨励する。	⑨⑫ B			
総合評価		B			

判定基準 A:十分できた B:できた C:やや不十分 D:不十分 E:わからない

評価項目	具体的目標	番号	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	理科	科学的に物事を見る力を育成する	1 毎時の学習内容を明確にし、授業展開に工夫をする。	① B	電子黒板やタブレットの使い道を増やす。
			2 基本的な物の見方や考え方ができるように、教具・教材の工夫・改善に努める。	① A	
		基礎学力の向上	3 成績不振者に対して、教科内で協力して適切な指導にあたる。	①② B	
		および学習意欲の向上をはかる	4 実験・観察を通して、自然の物事・現象についての興味・関心を喚起する。	①② B	
		基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚	5 授業を受ける姿勢・態度を徹底的に指導する。	⑥ A	
	総合評価			B	
保健 体育	体力の向上 集団行動の充実 スポーツライフの基礎を培う	1 体育授業において運動量の確保に努め、生徒が継続的に運動を行えるよう環境を整備する。	①⑤ A	・基礎体力の向上。 ・感染症予防を意識した環境の整備と運動量の確保に努める。	
		2 規律ある行動を学ぶとともに、公正・協力・責任等に対する意欲を高める。	①⑥ A		
		3 健全な心身の育成を目指し、心身の相関について理解させる。また、個に応じた種目を選択させ、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、将来のスポーツライフに結びつける。	⑥ B		
		総合評価	A		
英語	学習意欲の向上を図る 基礎学力の定着を図る コミュニケーション能力の育成に努める	1 ノート・課題提出や発表等により、積極的に授業に取り組む姿勢を育てる。	① A	・英検の合格者数を増やす。	
		2 単語テスト・小テスト等の実施により、基本的文法・語彙を定着させる。	② B		
		3 英検の希望者受検を定着させ、指導する。	①③ B		
		総合評価	B		
書道	表現力の向上 鑑賞の基礎的能力を伸ばす 創造の喜びを実感する授業への取り組みに努める	1 個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる。	① B	・個別指導の充実と用筆法の定着率の向上。 ・作品を相互鑑賞する時間の確保。	
		2 ささまざまな作例を取り上げ、幅広い表現活動を促す。	① C		
		3 生徒の素直な見方を尊重しつつ、制作意図や表現の工夫点にも気づかせる。	① C		
		4 お互いの作品を鑑賞するとともに、さまざまな展覧会の鑑賞も促す。	⑦ C		
		5 生徒が興味を持つような題材を設定して、意欲を持って制作活動ができるようにする。	① B		
		6 自分の表現のテーマ(主題)を明確化させていき、それにふさわしい表現を工夫させる。	① B		
		7 作品は必ず完成させ、制作の達成感を味わわせる。	⑦ A		
総合評価	B				
家庭	家庭に関する知識や技術の習得に努める 生活課題を見出し、これを改善しようとする態度を育てる	1 生徒の実態に応じたプリント等を活用して、基礎的な知識を身につけさせる。	① A	感染症対応策を検討し、各実習の実施。	
		2 感染症対策を実施し、実習や実験を通して、生活に必要な基礎的知識や基本的技術を生身につけさせる。	⑥ B		
		3 高齢者の疑似体験などの体験学習を通じて、理解や関心を深めさせる。	⑥ C		
		4 資料等を活用して、家庭生活に関する興味・関心を持たせ、問題点や課題を見つけださせる。	① A		
	総合評価			B	
機械	基礎・基本的な学力・技能等の向上 ものづくり教育の充実 資格取得 広報活動	1 専門教科における基礎的重要項目を理解させる。	①② B	・規範意識の向上に努める。 ・実習後の清掃の習慣化に努める。 ・ICT機器の有効活用と資料等の共有に努める。 ・座学・実習・資格指導との関連付けの検討。 ・実習項目等の見直し。	
		2 実習における技能・技術の習得に努める。	①② A		
		3 専門教科における不振科目の指導の徹底を図る。	② B		
		4 作業服の着用・作業終了後の清掃・安全教育を徹底し、3S活動に努める。	⑤ A		
		5 課題製作による完成の喜びを体感させるよう努める。	①④ A		
		6 幅広く資格試験へチャレンジさせるよう努める。	⑦⑫⑭ B		
		7 必要に応じた指導・補習の設定に努める。	①② B		
		8 中学生体験学習をより良いものにする。	⑤ B		
		9 機械科の特色を地域社会に広報する。	⑬⑮ C		
総合評価	B				
電気	基礎・基本的な学力の向上 資格取得の推進 地域社会との連携	1 生徒の能力を把握し、実態にあった学習指導をする。	① A	特になし。	
		2 実験・実習を円滑に進められるようにする。	① A		
		3 授業に対する主体的な態度の育成を図る。	⑤ A		
		4 個々の資格についての必要性を生徒に説明し、取得推進に努める。	⑫ A		
		5 補習・補講に参加させるようにする。	③ B		
		6 補習・補講の計画の充実に努める。	③ A		
		7 地域社会と連携して、適切な工業人の育成を図る。	⑩ B		
		8 電気科の特色を地域社会に広報する。	⑬ B		
総合評価	B				

判定基準 A:十分できた B:できた C:やや不十分 D:不十分 E:わからない

評価項目	具体的目標	番号	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科 情報 電子	工業技術者としての態度の涵養	1	実習における時間や服装等の遵守を徹底させる。	(5) A	資格取得指導の精査・適正化の検討。 各実習室の整理整頓を実施。 提出物の期限厳守の徹底および工業人としての規範意識の向上。 情報リテラシーの向上と情報倫理および情報危機管理の指導を継続して実施。		
		2	報告書の適切な表現、提出の指導やIT教育の展開に取り組む。	(1) B			
		3	基礎学力の定着	(12) B			
		4	資格試験への適切な指導を行う。	(1) B			
		5	成績評価の段階的な適正化をすすめる。	(15) A			
	工業教育の認知	5	中学校へへの出前授業など対外的活動を積極的に進める。	(15) A			
	総合評価			B			
	工業 化学	基礎・基本的な学力・技能の向上と態度の育成	1	生徒に興味関心をもたせる授業・実習を展開し、基礎的な知識と実験技能を習得させる。		(1)(2) B	電子黒板・タブレットを活用した授業・実習の進め方。
			2	授業や実習に主体的に取り組む態度を育成するとともに、ルールを守らせることを徹底する。		(6) B	
			3	実験を通して科学的なものの見方を育み、工業技術への広い視野をもたせる。		(7) B	
資格取得への意欲を高める		4	資格取得に対して意欲を持たせ積極的に学習に取り組むよう、計画的に指導する。	(12) A			
環境教育および安全教育		5	環境に配慮した化学技術の意義やその必要性を理解させる。授業や実習の中で環境教育を行う。	(1) A			
6		化学的安全の確保について学ばせ、取り組む姿勢を育む。	(1) A				
総合評価			B				
教務	各科・各学年・各部との連携を密にした円滑な学校運営	1	出張・年休等における授業時間の確保(振替)に努める。	(1)(2) B	他の部署と連携を密にして、より効率的な行事運営の調整を図る。		
		2	行事等の能率的な運営を図る。	(7)(16) B			
		3	基礎学力の向上・定着を図る	(6) B			
		4	補習等を企画し、進級保留者を減らす。	(6) B			
		5	教育課程の検討	(7)(9) B			
		6	様々な領域の教職員研修会を実施し、教育活動に還元していく。	(1)(7) B			
		7	ICT研修会・講演会等で得た情報の報告会を実施するように努める。	(1)(2) B			
広報活動	7	中学生体験学習の充実を努める。	(15) B				
総合評価			B				
特別活動	集団の一員として、よりよい生活づくりができるよう支援する	1	行事等は、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるよう計画する。	(6) C	コロナ禍の中での行事实施について再考したい。 新年度はコロナ禍での日工祭(文化祭)開催を予定しているが、開催方法・時期などの熟慮を重ねた検討が必要。		
		2	HR活動や委員会活動の充実を努めるとともに、社会奉仕の精神を養う体験的な活動の機会を取り入れる。	(6) B			
		3	クラスマッチや野球応援等を通して、一体感や達成感を体験させ、学校・学級の連帯意識を培う。	(6) B			
	部活動の活性化を図るとともに、各部の活動を支援する	4	部活動紹介の形態を工夫し、加入率の向上に繋げる。	(11) B			
	5	顧問会議等を利用し、指導者側が十分に連携を取り合い、生徒の自主的な活動ができるよう支援する。	(11) B				
	6	ホームページ(部活動紹介)の更新を行い、情報発信を積極的に進める。	(11) C				
	学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返り、新たな学習や生活への意欲や将来の生き方を考えたりする活動を支援する	7	学年もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見通しができるよう指導する。	(7) B			
	8	記録の活動のみに留まることなく、キャリアパスポートを用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程に努める。	(8) C				
総合評価			B				
進路指導	計画的・継続的な指導と、勤労観・職業観の育成	1	3年間を見据えた指導計画により、1年次からHR等を活用して継続した指導を図る。	(7) C	・コロナ禍における行事の精選と開催方法の検討。 ・進学希望者に対しての計画的な指導体制の構築。		
		2	インターンシップ・デュアルシステム等を実施し、勤労観・職業観の育成を図る。	(8) C			
	生徒一人ひとりに応じた適切な指導	3	本校生の希望と実態に沿った進路指導を実践し自己実現させる。	(1)(6) B			
		4	各学年・担任と進路指導部との情報交換を密にする。	(7) B			
		5	受験報告書や進路指導閲覧室の各種資料を積極的に活用させる。	(7) B			
		6	三者面談等をとおして個に応じた指導に努める。	(7) B			
	企業情報収集と求人枠の確保	7	企業採用計画等の情報収集を行い、企業と生徒の適切なマッチングを図る。	(7) B			
	進学希望者への充実した指導	8	進学希望者に対して、進学課外・模擬試験を行い、志望校に合格させる。	(9) C			
総合評価			B				

判定基準 A:十分できた B:できた C:やや不十分 D:不十分 E:わからない

評価項目	具体的目標	番号	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	1	礼儀作法と言葉遣いの徹底を図るとともに日常的・継続的に指導する。	⑤ A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部が中心となり、教職員一同、共通理解・共通行動を行い、生徒たちの規範意識を高めるように努める。 ・規則の変更に伴い、一貫性のある指導ができるよう教職員間の連携を密に図る。
		2	時間を守る・規律ある生活をする等、望ましい生活習慣の育成を図る。	⑤ B	
		3	制服・頭髪指導等、容姿指導の徹底を図る。	⑤ A	
		4	学年集会での生活指導を充実させ、規範意識の高揚を図る。	⑤ B	
	安全で安心な環境の確立と問題行動の未然防止	5	施錠、貴重品袋の活用等、盗難防止に努める。	⑤ A	
		6	HR、その他の機会を活用し、生徒の交友関係・生活実態等の把握に努める。	④ B	
		7	立哨指導を行い、歩行マナーや自転車の安全運転を心がけるように指導にあたる。	⑤ B	
		8	薬物乱用防止・交通安全・性教育・禁煙教育等を行い生徒の規範意識の高揚を図る。	④ A	
		9	家庭、地域社会及び関係機関と連携して指導にあたる。	⑥ B	
	相談体制の整備	10	いじめ防止に向け、日常の指導体制の整備を図りながら、いじめの早期発見に取り組む。	⑥ A	
		11	生徒との対話を心がけ面接・相談等を重視して、学年と生徒指導部が連携して指導する。	⑥ B	
		12	家庭との連携を密にし、早期適切な対応を行う。	⑥ A	
	地域との協力による生徒指導	13	家庭・近隣高校・関係機関との連携を密にして、地域全体で協力した生徒指導を行ない問題行動や事故の未然防止に努める。	⑥ B	
総合評価			B		
保健環境	生徒の健康の増進	1	個別指導の充実を図り、健康状態を適確に把握し、生徒の健康管理に努める。	⑤ B	感染症対策の継続。
		2	感染症予防に努める。	⑤ B	
		3	保健教育を実施する。	⑤ B	
	学習環境の整備	4	3S運動(整理・整頓・清掃)を推進する。	⑤ B	
		5	清掃用具等の整備・管理に努める。	⑤ B	
		6	清掃状況を把握する。	⑤ B	
		7	エアコンの安全管理に努める。	⑤ B	
総合評価			B		
図書	図書館利用の促進	1	新規図書等を積極的に購入し、図書館利用率の向上を図る。	⑦ A	図書館利用率の向上。
	視聴覚機器の活用	2	授業等における視聴覚機器の活用を推進する。	① B	
	図書委員会の活発化	3	図書委員の意識を高め、図書委員会活動を活発にする。	⑤ A	
	総合評価			A	
渉外	役員の活性化	1	広報活動や各種の研修を積極的に行う。	⑬⑭⑮ B	左記目標の更なる達成を図るため、動画・オンライン等の効果的な活用について検討する。
	保護者の参加促進	2	各種行事への参加率を高める。	⑮ B	
	総合評価			B	
情報管理	ICT環境の整備	1	ICT端末及びネットワークの維持管理を行う。	⑯ A	タブレット端末を活用した授業コンテンツの開発と拡充。
		2	情報セキュリティの確立につとめる。	⑯ A	
		3	茨城県教育情報ネットワークシステムの活用を図る。	⑯ A	
		4	職員用生徒系端末を利用し、校務のデジタル化を図る。	⑯ A	
	ICT教育の活性化	5	ICT教育についての校内研修を実施する。	①② C	
	広報活動	6	HPの充実させ、学校の広報活動に寄与する。	⑬⑮ B	
総合評価			B		
1学年	基本的な生活習慣の確立	1	日常生活を通して、基本的な生活習慣の確立に努める。(挨拶や3S運動の展開)	⑥ A	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の未然防止。 ・容姿再違反者への指導。 ・進路指導の充実(早期目標設定)。
		2	定期的に服装・頭髪検査を実施する。	⑥ A	
		3	生徒の観察や相談・連絡などを通して生徒の実態把握や生徒理解に努める。	⑥ A	
	基礎学力の向上	4	3年間を見据えた学習計画に基づき、基礎・基本的な知識の定着を図る。	①② B	
		5	課題や提出物の期限を守らせる。	② A	
		6	資格取得を積極的に奨励する。	⑫ A	
	進路指導の充実	7	キャリア教育に積極的に参加し、体験的に勤労観・職業観を学ぶ。	⑧ C	
		8	進路ガイダンス・HR等において、計画的に進路指導を実施する。	⑦ A	
総合評価			B		

判定基準 A:十分できた B:できた C:やや不十分 D:不十分 E:わからない

評価項目	具体的目標	番号	具体的方策		
2学年	基本的生活習慣の確立	1	3S(整理・整頓・清掃)運動を展開し、生活・学習環境を整える。	⑤⑥	A
		2	本校生として、ふさわしい容姿・行動を心がけられるようにする。	⑤⑥	B
	基礎学力の向上	3	基礎学力定着のための指導に取り組む。	②③	B
		4	課題や提出物の期限を守らせる。	②③	B
		5	担任-教科担当者間の連携を密にしてきめ細かい指導を行う。	①	B
		6	資格取得への意識を高め、資格試験の合格率を高める。	⑫	A
	進路指導の充実	7	キャリア教育に努め、勤労観・職業観の育成を図る。	⑧⑩	A
		8	自分の適性や能力を考えた進路実現に努めさせる。	⑨	B
		9	進路指導部・進路支援業者との連携を深め、デュアルシステムに参加する生徒以外にも情報発信を行う。	⑦⑧	B
	総合評価				B
3学年	基本的生活習慣の確立	1	規範意識の確立に努め、きちんとした言葉遣いやあいさつを励行させる。	⑤⑥	B
		2	公共マナーの向上を図り、社会の一員としての自覚を持たせる。	⑥	B
	学習指導・受験対策	3	主体的に授業に取り組ませ、基礎基本の充実を図る。	①②	B
		4	一般常識を中心とした基礎学力定着のための指導に努める。	②⑦	B
	進路実現	5	進路行事・HR・個別面談等における指導を通して、早い時期に進路目標を明確にさせる。	⑦	B
		6	安易な進路決定により、簡単に離職しないように指導する。	⑦⑧	A
		7	進学希望者に計画的に指導する。	⑨	A
	卒業へ向けての心の指導	8	母校愛を育てる。	⑥	B
		9	感謝の気持ちを育てる。	⑥	B
	総合評価				B
チャレンジ・プロジェクト推進事業	生徒の職業観、勤労意識を高める	1	キャリア教育の充実を図ると共に、企業実習(デュアルシステム)が円滑に実施できるように努める。	⑥⑧	A
		2	日立商工会議所と連携し、就職希望者を対象としたインターンシップを実施する。	⑥⑧⑩	E
		3	企業、学校、行政等と密に連携し、最先端技術に関する研修、施設見学等を実施する。	⑦⑧	E
	安全教育の充実	4	1学年生徒全員に対し企業での安全教育を受講させ、安全に対する意識の充実を努める。	⑤⑧	E
	特別活動に関する研修会・講座の開催	5	体幹・筋力・食事に関する研修会を開催し、生徒一人一人が体づくりの基本についての理解を深める。	⑥⑪	E
	外部講師による学習活動の改善	6	企業技術者等による学校での実践的指導を積極的に導入し、円滑に実施できるように努める。	⑦⑧	A
		7	多様化する生徒たちへ、大学生サポーターによる学習支援を実施する。	②⑦⑧	B
	地域貢献を通しての生徒の学習活動	8	中学校への出前授業や、親子ものづくり教室・学校説明会などを積極的に実施する。	⑬⑮	C
		9	特別支援学校の教材開発を生徒の学習活動として実施する。	⑥⑦⑮	E
	総合評価				C

・規範意識の確立。
・生徒の進路決定のための適切な情報提供。

進路関係の書類の書き方について共通理解をはかる機会を多くする。

・コロナ渦における、チャレンジプロジェクト関連行事の円滑な運営。
・令和5年度以降の実施計画に関する検討。

*評価Eは、コロナ渦のため計画を中止した事業である。

判定基準 A:十分できた B:できた C:やや不十分 D:不十分 E:わからない